

会 議 録

会議の名称	第2回小金井平和の日記念行事検討委員会
事務局	企画財政部広報秘書課
開催日時	平成27年7月30日午前10時00分から午前11時50分まで
開催場所	小金井市役所本庁舎3階第1会議室
出席者	委員：根岸座長、林副座長、石田委員、川上委員、河野委員、西田委員 事務局：吉田広聴係長、後藤主任
傍聴の可否	可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 記念行事について</li> <li>(2) その他</li> </ol> </li> <li>3 連絡事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第3回の開催日について</li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>
発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)	<p>発言内容</p> <p>別紙のとおり</p>
提出資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市民と市長のふれあいトークにおける市内小中学生から出た主な意見</li> <li>2 第1回小金井平和の日記念行事検討委員会会議録（未定稿）</li> </ol>

## 第2回小金井平和の日記念行事検討委員会

平成27年7月30日

【根岸座長】 おはようございます。時間前ですが、お集まりになりましたので、始めさせていただきます。猛暑の中、朝からお集まりいただきまして、ありがとうございます。ただいまから、第2回平和の日記念行事検討委員会を始めます。議題に入る前に、前回の議事録が配付されておりますので、事務局から説明をお願いいたします。

【吉田係長】 それでは、事務局から、ご説明申し上げます。

本日は、課長の天野がほかの会議で出張のため、私、吉田が説明をさせていただきます。

本日、第1回平和の日記念行事検討委員会会議録を机上に配付させていただいております。テープ起こしをしたものをそのまま配付させていただいております。事務局においても、これからの校正になりまして、現状、未校正のものとなっておりますので、ご自身の発言部分につきまして、空欄箇所も含めて、ご確認の上、修正等ございましたら、事務局までご連絡をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

【根岸座長】 ありがとうございます。

では、本日はまだ未校正ということですので、訂正部分あるいは言葉が意を通じていない部分もたくさんあるのではないかと思います。お持ち帰りいただきまして、次回以降、会議録の確認をさせていただくということをお願いできればと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【根岸座長】 それでは、議題に入ります。

議題(1) 記念行事についてとありますが、初めに、事務局よりご説明をお願いできればと思います。

【吉田係長】 それでは、事務局、吉田からご説明させていただきます。

小学生及び中学生を対象に実施しました市民と市長のふれあいトークで出されました子どもたちの意見を事前に送付させていただいておりますが、本日、もし、お持ちでない方がいらっしゃれば、ございますのでお渡ししたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、内容についてですけれども、こちらは事務局で概要をまとめさせていただいたものになっております。話し言葉をそのまま記録しておりますので、わかりにくいところ等ございましたら、ご質問をいただければと思います。

また、これから具体的にご議論いただくわけですけれども、記念行事の内容を検討するに当たりましては、条例の趣旨であります戦争の記憶を風化させないこと、平和について、学校でも、家庭でも、地域でも、改めて考えるような機会とすることということを踏まえていただければと思います。

また、未来に平和を引き継いでいくということで、今後、条例に基づきまして、毎年、大体同じ時期に実施していくこととなりますので、継続して実施できるものということにもご配慮いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【根岸座長】 ありがとうございます。

ふれあいトークについて、市内の小学生10人の参加者から出た主な意見をいただいているかと思いますが、これにつきまして、何かご意見、ご質問、ございますか。

大きく、平和とは何か。日本は平和だと思うか。みんなに見てもらいたいと思う「平和」の本は何か。平和のために自分ができることは何か。またどうすれば平和を築けると思うか。ということにつきまして、小学生からの意見が集約されております。これについてはよろしいでしょうか。

【川上委員】 私、前回の第1回目のときにお願ひしまして、小学生の方たちの集まりだけを傍聴させていただきまして、お見えになった10人だったですかね、真面目な方といたしますか、非常に優等生の方ばかりだったような印象をすごく受けました。そういう意味で、小学生にしては、非常に大人じみた発言、そういう方の集まりだったような感じがしました。

22日、年齢のアップした中学生の方のお話がどうかというのがちょっと興味があって、出席したかったんですが、私用がありまして、できなくて残念だったんですが、私個人の時代だとか、それから、今、吉田さんの説明がありました、世間でも言われているように、いわゆる継続して、皆さんが安心、安全、幸福な社会という方向を考えるならば、やっぱり、もうちょっと規模を大きくしてといたしますか、小金井市で10人というのは、小学生といえども、ちょっと残念だったな。また別なところで、いろんな催し物なり、そういうことをやっておられるということではあろうかと思いますが、この間の市長さんを中心としたディスカスの中では、もうちょっと規模を膨らませて、もっともっと声を大きくして、皆さんで将来に向かっていくということを決める方向でやっていったらどうかと感じました。

【根岸座長】 ありがとうございます。

これについて、ほかに何かご意見ございますか。

今、川上さんからのお話がありましたように、継続して、さらに、もっと意味のあるように、どのように拡大できるかというのは非常に重要な問題だろうと思いますが、まさに、風化させない、それから、いろんな場で、学校でも、家庭でも、地域でも考えるような機会を設けたい。一方で、継続して平和を引き継いでいき、それを拡大しながら、継続して実施できるものと考えていくということが重要になるかと思いますが、いかがでしょうか。何かご意見があれば、お話をいただければと思いますが。

突然で、なかなか難しい問題ですが、今年の3月に第1回の記念行事を行って、それについての参加者のアンケートですとか意見の集約などがありました。前回の実施をもう一度振り返るような形で、吉田さんから、それを一度ご紹介いただくことはできませんでしょうか。

【吉田係長】 平和の日条例を制定した記念ということで、3月に記念式典を実施させていただいています。内容としましては、あわせて、平和の作文コンクールを行いましたので、平和の作文コンクールの受賞者の方の朗読、それから、作文の選考委員をしていただいた黒井千次さんに講演を行っていただきました。また、昨年度の小金井市平和施策検討委員会の委員の方にも、戦争体験者ということで戦争体験を語っていただきまして、市長も戦争体験者ということで、少しですが、お話をさせていただきまして、それをまとめて、作文につきましては平和作文集として、記念式典につきましては記念冊子という形で、プログラムや小金井平和の日の条例を掲載し、パンフレットのような形にしまして、当日、お配りさせていただきました。

その後、戦争体験者の方のお話ということで、こちらもまとめさせていただいて、戦争体験集という形で、小金井平和の日制定記念式典のホームページに掲載させていただきました。

記念式典のアンケートの集計の結果を、前回、第1回の会議資料2ということで配付させていただいておりますけれども、やはり、ご意見の中で多かったのは、パネル展ですとか映

画会、そのとき、作文コンクールにつきましても、やらせていただいたということもありまして、そこについてもご意見が多かったかなと思います。また、式典の中で、黒井千次さんから、作文の講評とともに講演も行っていただきましたこともあって、講演会というご意見もいただいております。また、戦争体験者の証言ということ、あとはパネルディスカッションというご意見も、この中では出ておりました。参加していただいた方には、ほんとによかったと言っていただいて、戦争の記憶を風化させないようにということで、平和について、また改めて思い直す機会になったということで、事務局としては、ご好評をいただいていたかと思っております。

以上でございます。

【根岸座長】 ありがとうございます。

前回の実施について、参加してくださった方もいらっしゃいますが、それについて、何かご意見なり、いかがでしょうか。

林先生はお話もいただきましたが、前回の記念行事について、何かお考えがあれば。

【林副座長】 あのときは初めての実施ということで、当局にしてみても、私たちの答申というか、意見を全て網羅して実施するということはできなかったと思うんですね。行政は行政の立場で、私たちの答申を参考資料として仕切ってくださいということだと思えますから、あれであれでよかったんじゃないか。アンケートの結果を見ても、大変参考になる意見がたくさんありましたので、私は今回の進め方については、例えば、この間やった小中学生のトークの関係とか、第1回目のアンケートの結果とか、あるいは市で調査していただいた事例集、そういうものを参考にして、それぞれ委員さんに、自分としてはこういう考え方で進めたらどうかというものを出示していただいて、それをたたき台にして議論して、一定の方向にまとめていくというやり方がいいんじゃないかなと、進め方については、個人的にはそんなふうには思っているんですけども、今日はいろんな資料が出ていますから、資料についての質疑とか説明を受けて、次回には、そういうことを出し合って、日程の整理を進めていけば、当局が予定している4回におさまってくれると思うんですけど。それに縛られることはないと思いますけれども、進め方としては、ほかに方法がないんじゃないかと思うんですけどね。

【根岸座長】 そうですね。

ありがとうございます。今のお話で、それぞれが意見を出し合って進める、もちろん、そうしていかないと何も進まないということはあるかと思いますが、それについていかがでしょうか。

【川上委員】 例えば、具体的な話になりますけれども、講演会にお招きする講師の方へのペイといいますか、そういう予算みたいなものというのは、前回、3月はどんなふうに行われたんでしょう。例えば、子どもさんを相手とか、非常に強烈な形で1つの節を継続して忘れないようにという引き継ぎをということであれば、やっぱり著名な人、例えばスポーツ関係だとか、いろんな世界の人たちをというのが、パンダではないですけど、やっぱり、多くの層の人たちを、若いも若きも集めて印象づけるということが非常にいいのかなと。

私、いつも思うんですけど、市のいろんな催し物でも、例えば阿波踊りとか——阿波踊りというのは、私は四国のあの地区でやるのが阿波踊りであって、余興で、その地区、その地区、高円寺なんかでも長いことやっている。私も東京の人間ですから、いろんなところへ行って、祭りとかを楽しんでいますけど、やっぱり、小金井が何かするためには、予算をどういうふうにとって、どういう使い方をするのかということにも及ぶんじゃないかなと。

【根岸座長】 ありがとうございます。

今の予算との関係。

【林副座長】 いろんな案をそれぞれ出し合って、その中で、予算の問題や何かが出てくる。前回のとき、私も発言しているんですが、こちらでいろいろ要求して決めたことについて予算上の措置はきちんとできる、そういうために出ていらっしゃるんですかと、お二人について、教育委員会との調整なんかも、そういうことで出ていらっしゃるんですねみたいな話はしたんですが、いろんな案が出て、そこで議論しながら、それは予算上の問題でどうだろうとか、現実的にそこまで実施するということが無理じゃないとか、やっぱり、いろんな問題点というのは出てくると思うんですよ。その議論の中で整理ができるんじゃないかなと思うんです。市でも一定の予算上の措置や何か、当然、責任を持ってやらなきゃならない結果になると思うんですけれども、ただ、それがあまりに荒唐無稽なものであったとか、現状に照らして、そのままではちょっとやり切れないとか、いろんなことがあると思うんです。壁は。そこで出し合った意見の内容を一つ一つ審査して、議論していけば、それは難しいんじゃないとか、それはぜひやってもらいたいとか、いろいろ結論が出ると思うんです。そういう中で、行政からもお二人出ていらっしゃいますから、いろんな意見が述べられると思うし、調整が可能じゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

【根岸座長】 ありがとうございます。

とりあえず、予算についてはそういうような形で。

【川上委員】 今、話題になっている競技場の問題とかがありますから、やっぱり、お金のかかることだと思います。たとえ大きい小さいは別にしても、やっぱり、いろんな角度からきちっと、我々、企業人ですから、それがないと会社は潰れちゃいますので、そういう生活を何十年もやってきて、どうしてもそこから入るものですから、すいません、一応、意見として申し上げておきます。

【根岸座長】 ありがとうございます。

ほかに。石田先生、何か。

【石田委員】 私も今の委員さんの、要するに、予算はついているんだろうかというのが一番最初に思いました。例えば、講師をお願いするにしても、範囲内でおさまる方じゃないといけないし、それをちょっと考えておりました。

それで、例えば、おおまかに、このくらいだったらどんなことができるだろうかと、その範囲で考えるというふうにしないと、なかなかこうなっちゃうと、どうでしょうか。今までのを見てみますと、行政は予算があってできるということですからね。もう、これは予算はついているんですか。全然まだ……。

【河野委員】 行事内容ということでしょうか。

【石田委員】 いえ、決めることはこれから決めるんですから決まっていらないんですけど、何か決まった場合、来年3月10日に向けて、予算はとれているんですか。

【林副座長】 計画が決まらないと予算の見積もりようもないわけですよ。ですから、何をやるかということを経験して、これが可能なのかどうなのかと、そういうふうに関ければ。

【石田委員】 そういうこととですか。そうするとまだ……。

【林副座長】 最終的にこれだけやりたい、予算がどのぐらいになるか、それは可能かというふうに関係が進展していけば、そういうのもできるんじゃないでしょうか。私も行政に長くおったものですから、やり方としては、そういうことつきり方法がないんじゃないかなと思うんです。

【根岸座長】 ちょっとすいません、その辺、事務局に確認したいんですけれども、今、

3月10日に向けて、予算というものはとっているんですか、とっていないんですか。

【石田委員】 そのことを聞きたかった。

【吉田係長】 予算は、現状では一応、平成27年度予算で、当初予算、ついております。小金井平和の日制定記念行事ということで約16万、記念行事の予算となっています。概略、内訳を申し上げますと、講師謝礼で10万円、手話通訳者の謝礼で1万3,000円、記録用のビデオのカメラの賃貸借で7,000円、会場借り上げ料が2万2,000円、その他消耗品がついております。

【根岸座長】 おそらく、とりあえず昨年と同じような、会場で、記念の講演会ですとか、あるいは小学生、中学生を集めたトークですとか、そういう形なんではないかな。記念行事ということですから、多分、とりあえず、会場で何かというような形になっているんだろうと思いますが。

【林副座長】 いや、驚きましたな。16万でやれって、そんなばかな話は。

【川上委員】 結局、それぐらいのことが、林先生のおっしゃっていたことと随分違いますよね。

【林副座長】 何か、計画も何もなしに、いきなりつかみ金で予算をつくっているのって、議会にどういう説明したの？ 当然これをやる以上は、ここで決まったことについて、補正予算を出して予算を幾ら措置しましょうと、私どものやっていたときは、そういうルールだったんですよ。だから、ああ、そうかなと思っていたけど、いきなりつかみ金でやっていたというのは、今年の3月でやったのは、26年度予算で執行しているんだよね。

【吉田係長】 そうですね。

【林副座長】 あれは補正でやったんですか。

【吉田係長】 当初の予算ですね。

【林副座長】 当初予算。

【吉田係長】 その範囲内。

【林副座長】 今年度の27年度当初予算でこんなのがありますよということを、なぜ最初に説明して、資料か何か出さなかったんですか。いろんな資料が出ていて。

【吉田係長】 済みません、ちょっと事務局側としては……。

【林副座長】 何か目隠しをされてやっているような感じもあるんですね。

【吉田係長】 すいません、こちらとしては、確かに先に予算上の話をしていなかったんですけども、補正予算という形がとれるかどうかというのは、今この時点で、例えば、ご意見をいただいて、結果が出て、そのご意見をもとに、予算要求という形は考えられなくはないと思うんですけども、その結果、どうなってしまうかというのは、こちらでも、この時点ではっきりと、取れますとも、取れませんが話ができないのと、あと、予算につきましては、通常、昨年度同様の予算を要求させていただいて、ゼロということでは話し合いの場にもならなくなってしまうので、そういった意味で、当初予算で要求はさせていただいています。ただ、予算だけに縛られて、議論等が進まなくなってしまうということも懸念されていまして、事務局側としては、最初から、この予算の範囲内で、この内容だけでやってくださいという話をしないほうがいいかなということもありまして、資料等についても、最初、ご提出しない形で進めさせていただきました。今、さまざまご質問、ご意見をいただいた中で、やはり、予算の説明もというご意見もありましたので、現状の予算については、説明をさせていただいたところであります。

【林副座長】 座長、いいですか。

【根岸座長】 はい。

【林副座長】 個人的な意見を言わせていただければ、予算が決められていて、その中で何ができるか、それは行政の責任でしょう。自分たちが予算を組むんですから。私どもは、そんなものに拘束されていたんだったら、初めからそういうことがわかっていたら、受けませんよ。やっぱり、私どもは市民の立場で見解、意見を述べて、一定の考え方をまとめたいと思っているわけですから、市民的なレベルの考えでやってみて、その中で16万きり出せないというんだったら、それはそれで行政の立場で考えてやってくださいということになると思うんですよ。私どもは、それに拘束されないで意見を出しますよ。

【吉田係長】 そうですね、ご意見としては出していただいて。

【林副座長】 そうでなければ、それは、失礼な話ですよ。

【吉田係長】 それはおっしゃるとおりだと思うんですけど、正直、当初予算につきましては、ゼロというわけにはいかないというのが一番、予算がないという状態では委員会も開けませんし、話し合いということにもなりませんので、そういった意味では要求させていただいておまして、予算に縛られずご意見をいただいて、その後、現実的に、行政側としてどこまでできるかというのは、当然、検討、調整を進めさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【林副座長】 市長の冒頭のご挨拶の内容などを読んでみると、非常に高邁な意見を述べておられて、それで16万でやれというのは、裏にはそれがあったみたいな話じゃ、私ども、納得しかねると思うんですよ。ですから、私は、ここの意見は意見として、全て出すものは出して、それで、その意見をとって、どういうふうにするか、やらないかというのは行政が判断することだから、我々はそこまで立ち入れないですからね。ただ、我々は、ここでは、この見識というものをきちっと示したほうがいいと思いますね。

【根岸座長】 今の林先生のご意見でよろしいでしょうか。こちらではきちんと、何ができるかということを考えて、小金井の平和を考えていく、それにとって何が一番いいかということは今後検討していくという考え方でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【根岸座長】 では、それを前提としまして、いかがでしょうか。前の検討委員会のときには実現しなかったようなことが、前の検討委員会で出てきた意見では、一般市民対象の記念講演会、戦争体験集の作成、小学校高学年以上に対しまして、語り部による講話を行い、映像を記録として残す。さらに、小学校高学年以上の副読本の作成。また、一般市民に対しては、平和や戦争に関する文集の作成を集めるということ、さらに、親子で野川から玉川上水にかけて戦争の遺跡を歩くような、そんなことを考えてもいいのではないかと。さらに、中学生に対しては、3月10日の空襲について研究して、研究発表させるようなこともいいのではないかなどが平和施策検討委員会では出たかと思いますが、結局、今年の3月に行われたのは、小中学生に平和にかかわる作文をつくっていただき、それに対する講評と戦争体験者の語り部による講演。それから、黒井先生に、自分の経験を交えながら、小中学生の作文について講評いただきました。おそらく、先ほどの予算は、とりあえず、それと同じ程度のことと考えて会場をとって何かをやることは、それは当然あるべきですので…。

【林副座長】 26年度の執行結果、どのぐらいのお金がかかったんですか。

【吉田係長】 今、予算にある、同じぐらいの金額です。

【林副座長】 要するに、それに従って、ただ単に予算を組んだということですね。中身がどうだのこうだの、そのときに倣って予算をとったわけじゃなくて、前年の実績を考えてということ。

【吉田係長】 基本的にはそうですね。取らないと進まないの。

【林副座長】 先ほどのお話ではないんだけど、家庭とか、学校とか、あるいは地域という形で、平和問題に対する関心を高めていこうということをするについては、たった1回の講演会の費用ぐらいきり予算をとっていませんよという、それならそれで、初めにそういう前提を説明しておいてくれなければ意味がないと思うし、そんなことでどういうことができるのか。私なんか、もっとずっと広く考えて、例えば、小学校や中学校の副読本ぐらいつくったらどうかと考えていましたよ。だけど、そういうことを全然、これの予算をとるんだと思っているから、そのために急いでいるんだろうなど、私はそうとっていたんですよ。おそらく、9月あるいは12月の議会にでも、予算、補正の措置をするのかなと、こう思っていたんで、今急いでやっているのかなと、こう考えていたわけけれども。いずれにしても、この検討委員会の良心を評価して、きちんとして、市長に答申する。中をどういうふうにするかは行政の考えでやってもらうということきりないと思いますね。

【根岸座長】 ご意見としていかがでしょうか。

【川上委員】 なかなか、ちょっと難しい、すいません、要らんこと言ってしまったか、決してそういう意味じゃないんで、また、私も市のお仕事として参加させていただくことについては、林先生がおっしゃったように、市民がということが前提ですし、まして、この会議に参加したならば、漏らしてはいけないことは絶対にというのは常識でして、そのぐらいのつもりで参加させていただいていますし、皆さん、それは同じだと思います。

それで、予算云々ということに至らないにしても、3月に、26年度でですか、やった方が、私、先般の第1回の会議でちょっと発言させていただいたんですけど、そのときのメンバーさんが、先生と、いわゆる林先生という形なので、ほかの人たちが参加しないという、やっぱり、継続ですするという意味も、今のお話からしますと、もうちょっと何人か参加、そういう人たちを加えていただいて、最終的に、予算の問題で、できる、できないは別として、せっかくの委員会ですから、しっかりした最終的な答申ができるような形にするには、そのことも必要なかなと思うんですが、それはいかがでございましょう。

【根岸座長】 昨年の検討委員会で、あと2名の先生がおられました、それを今回、また委員としてお願いするというお話になりますね。ただ、今度は公募された方たちに来ていただいた訳ですから、例えば、オブザーバーとして来ていただけるということであればいいかと思いますが、委員として、これから参加するというのは、この委員会にはなじまないとは思いますが、いかがでしょうか。

【河野委員】 前回、資料で配付させていただいておるんですけども、検討委員会の設置要綱がございまして、今、ご説明いただいたとおり、公募、あと、学識の方等で委員を選定しておりますので、新たに委員を追加するというのは、ちょっと難しい状況にはございます。ただ、ご意見を聞くような機会を設けるというのは、この場でご検討いただくということは可能ではあります。

【根岸座長】 ということでよろしいでしょうか。

【川上委員】 ランダムに意見を言わせていただいているということなので、もし、それはということであれば、今のようにお話ししていただいて結構だと思います。

継続をとというのは、何のテーマでも、非常に至難のわざなんですね。大体、途中で消えていったり、それがいいという部分も大いにありますので、一概には言えないんですが、しかし、根気よく継続していくということは、やっぱり非常に重要なことだし、小金井市で、今後、立派な市をとるか、モデルチックな市を運営していくということについては、私は非常に大事なことかなと。そういう意味では、林先生、私、たまたま町会、一緒のところに住

まわらせていただいていますけど、こういうところへ参加していただいて、若い人たちにバトンタッチをしていただくという、非常に貴重なことだなと。私、全然知らないでお邪魔したら、林先生が見えていたので、そういうふう感じたわけです。会社でも企業でもそうですけど、今、東証の問題がありますが、バトンタッチするところというのは、何でも非常に難しいんですね。そういう意味で、いい小金井市にするためにも、市の職員さんはもちろんのこと、どうか肝に銘じて頑張っていたいただきたいなと思います。

【根岸座長】 どこから始めていいか難しいんですけども、先ほどの記念講演会でも、川上先生からお話しいただいたように、ネームバリューのある人をお願いする……。

【川上委員】 対象はね。小学生、中学生というところを一つとっても、そうすると、小金井に小学校、中学校、高校というのは全部で何校あるのかわからないんですが、残念ながら、小学生10人、中学生が17人だったですか、資料だけしかいただけていないんです。人数の問題ではないと思うんですが、やっぱり、多く参加をという、学生だけをとっても、そういう意味からすると、関心を高めると、非常にいい手段ではないのかもしれませんが、人間でありますので、まずそこから、参加意識から入らないと盛り上がらないというのは何でもあると思うんですね。

【西田委員】 すいません、ちょっと事務局に質問なんですけど、一応、これは3月10日前後に行う平和の日の記念行事、その日の行事について話し合えばいいのか、あるいは今おっしゃられたように、それ以外に、ふれあいトークだとか、先ほど副座長もおっしゃられていた記念の文集みたいなものの発行だとか、そういったものにまで広げて話して、それを集約していくという形でいいのか、どのように考えていらっしゃるんでしょう。

【吉田係長】 事務局としては、基本的には行事というのを検討していただくことがメインでありますけれども、その行事に関連して、副読本の印刷、発行といったことも含めて、1つの事業全体の中でいろんなことができればいいのかと考えておりますので、その日にやる行事ということに縛られるのではなくて、その一環の流れの中で、さまざまなご意見をいただければと考えております。

【西田委員】 はい、了解しました。

【根岸座長】 特に行事だけではなく、小中学生をどう考えるかというようなこと、昨年度は文集だけで終わりましたが、私は前に検討委員会が出された、例えば中学生に3月10日や、ちょうど今年今年戦後70年にかかわる戦争体験などの自由研究の発表をさせるなど、子どもたちの意識を高めていくようなことができればいいのかと個人的には思っていますが、それを3月10日の発表会なり、そこで、例えばパネル展示をやってもらうとか……。

【川上委員】 戦争というテーマであれば、リアルな大きなパネルをきちっと飾ってするというのは絶対必要じゃないですか。目で見るというのは、なかなか、効くんですよ。何かを読んで想像するというのとはちょっと違いますので、それをあわせでやるというのは非常に大事なことだと思いますね。これはビジネスでも一緒ですよ。見て、触って、使つてというふうにならないと、人間というのは、やっぱり本能で動きますので、頭だけではだめですね。

【根岸座長】 文章で書かせるだけではなく、そういうものを……。

【川上委員】 目で見るとか、必要ですね。

【根岸座長】 ええ。今の子どもたちって、大学生でもそうなんですけれども、文章だけで想像できなくなってしまっていて……。

【川上委員】 それはちょっと、今の学生さんに失礼だから何ともいえませんが、私、自

分の経験ではそうですし、ちょっと話が長くなる、要望を言って申しわけないんですが、私、建築関係の耐震なんかを使う、あと施工アンカーという協会をつくりまして、30年ぐらいそこにいる、晩年には3期ほど会長も務めたんですけど、やはり、今、先生がおっしゃったように、大学の建築科に持ち込むんですね。それで研究していただく。その先生に講演していただく、全国、沖縄から北海道まで。やっぱり、盛り立てて、今、ものすごい全国展開になっていますが、いわゆる施工をしますんで、物を、実際に外で工事をしますんで、正しい施工をしましょうというんで試験制度をつくったり、今、国交省を挙げて、ものすごく盛り上がって、地震も多いですし、この間のトンネル事故もありましたし、日本は非常に災害の多いところなんです。この間の雨で、建物で人が亡くなっているわけですから、火山もありますし、そういうのにつなげて非常に盛り上がって、若い人から年寄りまでということでやっています。だから、やっぱり、先生がおっしゃるように、いろんな知恵を出し合って、皆さんの幸福、幸せにつながるんだというふうにもっていくのにはどうしたらいいかということを実際に考えましょうよ。一つ一つテーマを絞って、大きなことを言って申しわけないんですが、細かいことからやっていくというのは非常に大事なことでないでしょうか。

【根岸座長】 はい。

あと、私の個人的な意見で申しますと、戦争というのは、結局、国家のいじめですよ。競技じゃないですよ。それは今回の3月の黒井先生の講演でもあったんですけども、疎開を経験していて何が嫌だって、いじめが嫌だった。それで、東京の小学校で、後で卒業証書の授与やクラス会を開くと言われても、自分に行く気がしないとおっしゃっていたのがすごく印象に残ってまして、今回のふれあいトークでも、平和をどう考えるかと、いじめにかかわるような話がそれなりにありましたが、現代的な問題でもあって、そこにつながりながらそれがどんどん国家間で大きくなっていったのが戦争だろうと私は思っています、決して競技場の中の競技ではあり得ない。戦争というのはバトルゲームみたいな、子どもたちは受け止めています、そうじゃないんだということを、考えていく。それは学校でも、家庭でも、社会でもの現代の問題だろう。社会的にもハラスメントがいろいろ問題になっている中で、反対に人間が大分弱くなったのかなという気もしないではありませんが、そんなところをもう少し考えていくような発想ができないんだろうかというのが、ふれあいトークとか、今回の講演をいただいた私の感想でもあります、何かそこを形にできないだろうか。そのためには、講演会だけではなく、それを広げて、小中学生に参加していただくようなものがないといけないんじゃないか。その集約が、例えば3月10日前後の講演会なりというものにつながっていけば、市民の中で、もっと共有されていくんじゃないかとそんなことを考えているんですけども。

もう一つ、そのためには、小中学校の協力というのが不可欠になるかと思うんですが。

【石田委員】 今、小中学校に協力をいただくということに関しては、かなり余裕を持ってお願いしないと。

【根岸座長】 そうですね。

【石田委員】 決定して、施行までに日にちがないと、非常に難しいように思います。例えば、ポスターとかをお願いするにしても、今の小学生は忙しいから、警察から、消防から、いろんなものが来るんですね。ですから、もし、そういうことを協力をお願いするんですしたら、前もってお願いして、かなり余裕を持たないと難しいんじゃないでしょうか。

【根岸座長】 そうですね。それで、私は、実は先ほどのパネル展示というのはお願いするのは遅いと思っていてまして、それは夏休みの宿題か何かから始めないといけないと思うので、来年度に向けてというような、息の長いようにしていけないのかなと思っ



れども、先生の啓発をしないと、今、むしろ、先生方は腰が引けちゃっていますよね。こんなこと言ったらまずい、したらまずいみたいなことがあって、その点、こういう状況の中で、稲葉市長がこういう問題提起をしてやっているというのは偉いなど。それにしても予算が貧弱で、お粗末だなど、正直、こんなふうに思いますよ。

【石田委員】 先生から教育していかないとというのは、ちょっと壮大なことですけども。

【林副座長】 先生が熱心だと、たくさんの生徒が出してくれるんですよ。

【石田委員】 学校の先生って、ほんとうに、毎日、毎日がいっぱいいっぱいみたいですよね。保護者からの突き上げものすごく大きくて、教育と突き上げに対しての対処ということで、もう手いっぱいというような状況ですから、新しいことを増やしていくというのは、かなりの覚悟をしてやっていただかないと、やっていただけないという。

【林副座長】 持続性を確保するというのはとっても難しい。

【石田委員】 大変ですね。

【林副座長】 ちょっと話がそれで恐縮なんですけど、私、今、老人クラブにかかわっているんですが、老人クラブで、小学校で毎年、私どものクラブでやるのは第一小学校なんですけれども、昔遊びというのを生徒との交流等でやっているんですよ。私たちが子どものころやっていたいろんな遊び、今の人たちは知らないということで、7種類から10種類ぐらいの昔遊びを持ち込んでやるんですけど、大体、ちょうど中間の3年生を対象にしてやっているんですよ。一小だと3年生の教室は3つあるんですね。やっぱり、3人いらっしゃる先生の対応で、クラスクラスの対応が違うんですよ、取り組み方の姿勢というのが。ですから、やっぱり先生の影響というのはかなり大きいのかなと実感するところがあるんです。そんなことを言うと、先生に大変失礼なんですけれども、先生の教育からなんて言ったの、大変失礼で取り消しておきますけれども、やっぱり、そういう実態があるように、先生の意気込みで大分違ってくるかなと思うんですね。

【川上委員】 これを考えると、かなり長い目で見ていかないと、来年からすぐ全部のあれで何とかしろみたいな感じでやってしまうと、かえってハレーションが大きくなってしまいます。そんなつもりじゃないのに、話が変な方向に行ってしまうと、我々はそんなつもりで言っているんじゃないかと、平和教育だみたいな、そういうことじゃなくて、きちっとした平和の意識をみんなに持ってもらって、それを醸成して行って、やはり、どういいう世界がいいのかというのをみんなが考える機会を持ってもらう。それを一方的に上から言われて何かやるんだとか、そういうふうに捉えてもらっては困るなと私は思っているんですね。だから、そういう意味では、学校の中でもそういうふうにもやってもらいたいと思うし、そうすると、いきなり上からガンと言われたような雰囲気はつくりたくないしというのは個人的には思っているんですけどもね。

【林副座長】 例えば、今回、子どもさんたちともトークをやられて、その結果をいただいたんですけども、ああいうものを簡単に、ちょっとしたパンフレットみたいにして、ほかの生徒全員に配ると、意識の共通化、共有化といったらいいのか、そういうものを図るのに、そんなにお金もかからないんじゃないか。そういうことをやっていったら、ああ、こんなことを仲間がやっているんだなというのがわかってくると思うし、そういうことも大事なかなと個人的には思ったりしながら、今日、出てきたんですけどね。

【川上委員】 先生の今のは大事ですね。私、先ほど申し上げましたように、小学生のに出させていただいたんですけど、私、実は戦争孤児です。みんないなくなっちゃって、よそのうちで育てられて大人にしてもらったんですけど、もう、胸がいっぱいになって、今の幸

せそうな子どもたちの話を聞いていたら涙が出ちゃって、市長から一言と言われたんだけど、昔を思い出して、話ができなくなっちゃいましたね。そういう苦労というか、経験をしてきていますので、今、先生のおっしゃったようなことを地道に、いろんな形で、写真でもいいですし、そういう意味では、事務局の皆さん、日常のお仕事が忙しいし、大変でしょうけれども、心をそっちへちょっと向けていただいて、予算をお願いして、そういうことを積み重ねていくというのがかなり大事かなと思いますね。こういうことを続けていかないと、花火を上げるんでも、そういうのが非常に役立つ場合があるんですね。

【根岸座長】 今考えているのは、今回の場合は学校に協力をお願いするというのは無理だと思いますが、反対に、戦後70周年で、自由研究でそういうことを書いてきたり、あるいは発表したりする小中学生が多いんじゃないかと感じています。小中学校でも高校でも、もし、文化祭などそういうものを発表するようなところがあれば、それを借用するというか、もう一度利用させていただくような形で、少し集めることはできないだろうか。そうすれば、その子たちにとっても、そこだけで終わったのではなく、例えば、市がそれを公開してくれるとか、あるいはそれを集めて冊子をつくってくれるとか、そんな形で、不公平にならないようにそれができる方法がないだろうかと少し考えたんですけれども、教育委員会で何かうまく……。

【西田委員】 私、学校教育の担当じゃないものですから、隣の部ということになるんですが、先ほど石田委員もおっしゃられたように、見ていて、学校も非常に忙しいということもありまして……。

【根岸座長】 それを集めるだけでというか。

【西田委員】 そうですね。私、ちょっと思ったんですけど、この間の、作文コンクール、平成26年度、出してもらったのを私も見させていただいたんですけれども、大人がタジタジになるほど立派なことをみんな考えているんですよ。大人が書いた文章じゃないのかなというような、それぐらい完成度が高い。今回、入賞しているというか、ここで発表になった方々の文章も当然素晴らしいんですけど、それ以外に出していただいたのも、ほんと甲乙つけがたいような、こう言ったら失礼になるのかもしれませんが、みんな真面目に考えているんだなという気がしました。ですから、今、根岸座長がおっしゃったように、皆さんが非常に一生懸命考えて、自由研究とかで出してくる方もいるかもしれないんですね。ただ、それをそういう形で発表するとか、それを集めて何かするということは、今、児童生徒は知らない状況なんですよ。あくまでも学校の自由研究のつもりで出していますんで、果たしてそれをこういうので使ってしまうというのは、本人がいいと言えればいいのかもしれないんですけど、何か形として集めてしまうというのが、作文コンクールみたいにしても、最初からそういうことで募集すれば、そのつもりで出しているからいいんでしょうけれども、またちょっと、それはそれで、その難しさはあるかなという。

【根岸座長】 そうなんですね。それが今、不公平にならないようにという。

【西田委員】 そうなんです。だったら、私もそのような内容にして発表できれば、そのほうがよかったななんていうのは、後出しじゃんけんみたいに言われちゃったみたいな。

【根岸座長】 そうなんですね。

【西田委員】 感じになるのは、ちょっと、その辺をどう考えるかというのはありますね。

【川上委員】 子どもさんたちが非常に立派な作文なんかをつくられるというか、頭で描いておられるって、非常に大事な、貴重なことですし、子どものほうから先生方をそういう形に持っていくというのが非常に多いというケースも聞いていますので、非常に大事なことかなと思うんで、私、先ほどちょっと申し上げました建築関係のいわゆる試験制度を取り

入れたときに、外でやる仕事の職人さんというか仕事師なもんですから、彫り物なんかをした人たちが、最初はいなかったんですけど、だんだん、世の中がちゃんとした資格を持っていないと受け入れられないようになってきていますので、そういう人たちも受けざるを得なくなってきたんですね。そういう人たちが試験の会場へだんだん出てくるようになりまして、我々の仲間がみんな試験官に行くのを嫌がりまして、私のところへ来て、「川上さん、言い出しっぺなんだから、あんた行ってよ」なんて言うので行きますと、ずら一っと、同じ会社で、会社のカラーが、そういう人が集まっているところがあるんですね。それで、そういう人たちがずら一っと並んで、異様ですよ。だけど、やっぱり、それをくぐり抜けてくると、むしろ逆に、そういう人たちのほうが、襟を正して、しっかりした仕事をするというか、今そういうふうになってきていますよ。だから、時間がかかるし、継続するというのがいかに大事かという、いろんな形の経験をしていますので、先生がおっしゃったこと、ぜひ、何らかの形で実行しましょうよ。方法はいろいろ考えていかなきゃいけないと思うんですね。

【根岸座長】　　そうですね。

【川上委員】　　実施する、実行するというのがいかに大事かということですね。

【根岸座長】　　だから、それをどう工夫……。

【川上委員】　　工夫するか、どうやってやりましょうかということですね。

【根岸座長】　　ええ、そうですね。ちょうど戦後70年です。

【川上委員】　　その節も大きなね。

【根岸座長】　　節目というのも大きいと思うんですね。

【川上委員】　　これは大きな材料になりますよね。

【根岸座長】　　はい。これが80年になると、体験者がほとんどいなくなるという。

【川上委員】　　ああ、それはありますね。広島、長崎、沖縄、何回も行きますけど、実際にその場所でどうこうというのを見ると迫力が違いますもんね。

【根岸座長】　　そうですね。

【川上委員】　　自分と重ねると、ほんと、嫌な思いというか、そういうことばかりなんで、最近は何年をとってきて、涙もろくなってきたんで、避けていますけど。ほんとに、物が食べられない。そんなことを言っても、今の子どもさんたち、信じられないでしょうけどね。

【根岸座長】　　とりあえず、こう、あの……。

【川上委員】　　今の、やりましょう。

【根岸座長】　　ええ。私の考えていたことはそういうことで、何とか子どもたちを巻き込んで子どもの考えていることを大事にして、それを集約できないだろうか。そうすると、前のよりも一歩進めるかなと思うんですが、では、それを具体的にどうするか、例えば3月の式典のときに、どう表現したり、あるいはさらに啓発活動を行う。ただ、結局は、どなたかにお話しいただくということにはなるとは思いますが今後、具体的な存在を考えていきたいとは思っております。

何かご意見いかがでしょうか。

【石田委員】　　先生、よろしいですか。

【根岸座長】　　はい。

【石田委員】　　今の自由研究に出てきたものを使うという先生のご提案ですけど、夏休みの自由研究というのは、もう始まっていますので。

【根岸座長】　　そうなんです。

【石田委員】　　あれですよ、今年の場合は。

【根岸座長】 今年の場合は無理。ですからこう……。

【石田委員】 ということですけど、たまたま出てきたのを使わせてもらえないかということですか。

【根岸座長】 はい、そういうことです。

【石田委員】 出てくるかもしれない。

【根岸座長】 はい。多分、出てくるだろうという……。

【石田委員】 そういうことですか。

【根岸座長】 はい。今年、戦後70周年ということもあったり、あるいは、例えば市内の中学校や高校などの文化祭なんかで、そんなパネル展示をやるようなサークルがないだろうかというようなですね。

【西田委員】 あまり聞いたことないですね。

【石田委員】 70年ということで、今年出るかもしれないという。

【根岸座長】 はい。

【西田委員】 自由研究が、学校でどういう出し方、どういうテーマで、何をさせているかというのがちょっとわかりかねますし、実際、70周年というのがどれぐらい出てくるかというのも、ふたをあけてみないとわからないですし、では、それを別の目的で使っているかといって、いいですよという話になるかどうか、ちょっとわからないというのが現状ですよ。

【根岸座長】 あるいは作文ではなく、例えば、戦争のことについて、あるいは身近なことの中での戦争の問題について、自分でレポートを書くというようなものを改めてお願いして集めてみるとか。

【西田委員】 前回はとにかく、作文を出してもらった。

【根岸座長】 そうですね、作文を集めて。

【西田委員】 ですから、同じような形でお願いすることは可能かもしれませんよね。今年今年もまたお願いしますというようなことで作文なりを、あるいは自由に書かせるのか、何かテーマを決めて書いてもらうのかというのはあると思うんですけども、それをお願いするというのは、学校によっては、引き受けてくれるところはあるかもしれません。ただ、全校とかということであると、いや、うちの学校は手いっぱいだからという話はあるかもしれないですね。やっぱり、児童生徒にやらせるという形になる。カリキュラムというか、教育の一環としてやる形になるかと思えますんで、あるいは、お願いするので自由に出してくださいという形にするのか。私、専門じゃないんですけど、例えば指導室というところがあって、学校との調整とかをしていますので、そういうところに、前と同じように作文を書いて出してもらうことは可能かということをお隣の委員会までに聞いてくることはできますけれども。

【石田委員】 自由研究に出てきたものをというよりは可能性が……。

【根岸座長】 高いと思いますね。

【石田委員】 ですね。自由研究の場合は、もしかしたら、ゼロかもしれないんですけどもね。

【根岸座長】 はい。自由研究に使ったものをもう一度転用しても構わないという。

【西田委員】 それはもう自由に。

【根岸座長】 やって構わないと思うんですが。

【西田委員】 それをお願いできるかどうかということは確認できます。

【根岸座長】 そうですね。そこに写真が入っても構わないとか、図が入っても構わない

とかというようなですね。

【西田委員】 そうですね。作文じゃなくて、例えばレポートみたいな。

【根岸座長】 レポートみたいなもの。

【西田委員】 論文じゃないですけど、写真や図表を入れてもいいですよとかというのはあるかもしれないです。

【根岸座長】 はい。

【西田委員】 皆様のご意見ということであれば、小中学生にそういうことをお願いするのは可能かということ、私のほうで担当部署に確認をしてみたいです。

【林副座長】 西田さんは、学校教育じゃなくて、市民の生涯教育のほうを担当だとおっしゃっていましたね。

【西田委員】 はい、そうです。

【根岸座長】 今のはあくまでも私の個人的な考えだったんですが、ほかの委員の方から、何かお話をいただければ。今の話は西田さんに、また確認をしていただいて。

【西田委員】 そうですね。

【根岸座長】 次回……。

【西田委員】 決まっている話じゃないですからね。

【根岸座長】 感触がどうだったかという中で考えていけばいいかと思います。

【西田委員】 学校ということになると、小学生、中学生なんですかね。

【根岸座長】 基本的にそうですよね。

【西田委員】 そうですか。都立の、私立もそうですけど、小金井市内に高校もありますよね。

【根岸座長】 はい。高校に言っても問題はないとは思いますが。

【西田委員】 高校だと、例えば秋の学園祭とか、夏休みが終わっちゃったという前提からするとね。

【根岸座長】 何かありそうな気はするんですよね。

【西田委員】 そうすると、70周年ということだと、あるいはそういうことを取り上げている学校もあるかもしれない、わかりませんがね。

【根岸座長】 そうですね。できれば私は、高校生がやるより、小学生、中学生が考えてきたのをやりたい気はします。高校ですと、大分立派になっていって、小中学生のものとは、またちょっと違うかなと思います。

【西田委員】 形として、例えば、小中学生は学校を通じて募集をするという方法があるかと思うんです。もっと平たく言うと、小中学校を通さないで募集をする方法もあるんですけどね。例えば市報とかで、小中学生も応募していいですよみたいな、高校生の部というものもつくって、ホームページや市報なんかで事務局で呼びかけて、一般の部という形であれば、カリキュラムと全く関係なく、意欲のある子どもなり大人が、作文とか、論文とか、レポートとか、形式はちょっとわかりませんが、それに応募するという事は可能です。ただ、学校の課題的にしてしまうと、教育委員会を通してやらないと、グチャグチャになっちゃう。あるいは小金井市民に限らず募集するという事もあるかもしれないというところはあります。

【根岸座長】 大人にやらせると、いろいろな問題が出てきちゃうような気がして。

【西田委員】 継続性とか何かをしっかりとつくるんだったら、やっぱり、学校を通してお願いしたほうが。

【根岸座長】 はい、そうですね。

【西田委員】 ええ。やっぱり、しっかりした形はつくれると思います。

【根岸座長】 はい。大人が書いて、変にきな臭いものというのが、ちょっと危惧はあるんですが。

【石田委員】 やっぱり、市報とか、ホームページとか、そういうので募集すると、私も前の仕事のことなんですけど、募集しましたら、小金井市からはほとんど応募がなくて、全国から来て、最終的にどうしようかということがあったんですね。ですから、小金井らしいということですよ、先生。

【根岸座長】 そうなんですね。

【石田委員】 ですから、なかなか、その辺が難しいですよ。

【根岸座長】 はい。

【石田委員】 ホームページなんかでやって、小金井市に限るというのもおかしいですしね。その辺の兼ね合いは、小金井市に限る。

【西田委員】 市報だったら市民にということで、ホームページ、市報でも、一応、小金井市に在住、在勤に限るという……。

【河野委員】 在勤も入りますね。

【西田委員】 そういうのはよくありますから。

【根岸座長】 そうですか。

【西田委員】 ええ。ほかの市の方は結構ですということであれば、在勤まではいいですよというような形で。

【石田委員】 在住、在勤ですか。

【西田委員】 ええ。やるような募集は、かなりありますので。例えば、小中学生にお願いするという形になると、教育委員会との調整が必要になります。

【根岸座長】 私は小中学生がやってきた作文・レポートをやりたい。

【西田委員】 小学校・中学校を通さないで、ホームページ・市報等で募集する。学校の課題として、依頼するのは教育委員会を通す。

【石田委員】 市で広報してもらったら、市内はなく、全国から応募がきてしまった。川上さんのおっしゃった多くの人に参加するよう、親子で映像を見て、話し合う。1日だけとれば、会場とかとって、映像を借りてくる。親子で話し合う。中心は小・中学生にした方がよい。

【西田委員】 親子でというのが、大切である。小中学生に考えさせていく。映像を使い、視覚的に訴えることがいつまでも考えることになる。市内の方に限るようであれば、市報やホームページなどに掲載する際に、市内在住、在勤、在学と条件を出すという事例もある・

【根岸座長】 どういう映像を選んだらいいか。

【林委員】 一覧を事務局で出したのが、参考になるが、小中学生を対象として集めておらず、小中学生に考えさせるというものがない。

【根岸座長】 いかがでしょう。映像とかをいくつか出してもらったが、あと2回で具体的に何かまとめていかなければいけない。次回は各々の意見を出してもらい、もう少し、具体的にどうしていくかを考える。西田委員には、協力の可否を教育委員会のことを調べてもらう。事務局には資料でいただいた中にあった上映会では、具体的にどういうものを上映したかをしらべてもらう。

【林副座長】 当初予算の弾力性について、市長に聞きたい。

【西田委員】 会場借り上げ料は小ホールか。

【吉田係長】 そのとおりです。

【根岸座長】 パネルの展示とかが出来ればいいが、市の現状の平和事業はどうか。

【吉田係長】市役所と市民交流センターで原爆写真パネル展を行っている。内容は広島、長崎の原爆写真と絵等を展示している。期間としては、終戦日ではなく、原爆投下の日付近で展示しています。

【根岸座長】小中学生が作ったものをパネルで展示できれば、もしくは模造紙か何かで作り、共同制作のようなものができたらいい。

【吉田係長】パネルの名称は原爆写真パネル展、非核平和事業です。

【根岸座長】レポートとかをいくつか作り、模造紙に貼る。数枚で貼る。そして、レポートはあとあと、冊子にする。子どもたちが大きくなってからも、あとあとにつながっていく。それからちいさな壁新聞で昭和20年8月の新聞を自分で作ってみました。小金井が空襲されたときのこと、おじいさんの小さいころの写真と記事の新聞、飯盒の新聞を作り、A4の紙でまとめる。作文のイメージ・壁新聞のイメージを作れるかどうか、学校に西田さん、聞いてみてください。年によってテーマを決める。A4の紙1枚、小中学生が作ったパネルを飾ってみたい。次は映像とパネルを具体化していく。3月10日の行事にどう集約させるか。

【川上委員】誰か宮崎駿さんと市役所で知り合いはいないのですか。宮崎さんに映像をお願いしてみたらいかがですか。お借りしてそこに折り込めませんか。

【石田委員】映像も様々で、新しい映像もあれば古い映像もある。親子で見られるという映像も限られる。また無料のものもある。新しくて有名なものでなく、古い映像でも、戦争悲惨さや人間の優しさを学べる映像は昔から使われているもので、いいのではないのでしょうか。

【川上委員】やっぱり人が来ないと心配になる。平成26年度の時はどこで何人くらい参加ですか。

【吉田係長】小ホールで56名参加です。

【川上委員】参加が少ないですね。

【林委員】あの日はすごい雨だったんです。雨のせいだったんです。

【石田委員】社会を明るくする運動で映画をやっているが、人数は入る。ディズニー映画をやれば、大ホールの8割がたの席は埋まる。とはいえ、内容も何でもいいというわけではない。広報としては、各学校にチラシを配布していた。広報の仕方等もあるのではないかと思います。

【吉田係長】次回は8月17日（月）で第2庁舎6階601会議室です。